

地域とともに輝く“上文殊っ子”

福井市上文殊小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	1回
地域及び家庭への学校公開	16回

(2) 地域人材の活用（のべ人数）

講師・ゲストティーチャー	27人
授業ボランティア（含：低ボラ）	151人
登下校支援ボランティア	約1200人
その他（ ）	0人

(3) 特色ある活動

テーマ「 ふるさと教育 」

具体的活動内容

① 地域と連携した「東大寺お米送り事業」

本地区で伝統的に取り組んでいる「東大寺お米送り事業」に、児童や保護者、教職員が積極的に参加し、地域の方々と共に、田植え・はさ建て・稲刈り・はさ掛けを体験した。また、東大寺お米送りに参加する機会にも恵まれ、自分の住んでいる地区のよさをあらためて実感することができた。

② 「三世代交流」による体験学習

“お米とワラと食文化”をテーマに公民館・老人会 PTAなど多くの方々の協力を得て開催された。「人と稲との関わり」のお話をはじめ、伝統的な料理の実習や展示、わらを使った体験、かきもち編みなど盛りだくさんの内容であった。その中で、子どもたちは、食べ物に込められた人々の思いや暮らしの中での知恵について学ぶことができた。



（ワラを使ってかきもち編み体験）

③ いろいろな生き方にふれる講演とコンサート

「スポーツ選手活用体力向上事業」として行われた松本直美氏（シドニーオリンピック 女子サッカー競技キャプテン・銀メダリスト）の講演と実技指導や、三兄妹エッセーのトーク&ライブによって、子どもたちは、「夢に向かってがんばることのすばらしさ」「仲間と認め合うことの大切さ」を直に感じる事ができた。どちらも、保護者や地域の方がたくさん協力と参加をしてくださり、大変有意義な活動にすることができた。

成果と課題

(1) 成果

- ① 地域の教育力を活用することで、子どもたちは、自分たちの地域のよさを自覚し、それを大切にしたいという思いを抱くようになった。
- ② 教職員の自己評価と児童・保護者アンケートをもとに、学校関係者がより客観的に評価して、学校教育活動の具体的な改善案を示すことができた。

(2) 課題

- ① これまでの活動を継続・発展させ、公民館や地域諸団体とのよりよい連携の仕方を工夫していきたい。「こんにちは先輩」や「ミニコンサート」など、地域の方々が気軽に学校へ足を運べる取り組みを増やしていきたいと考えている。
- ② 地域の方の熱心な取組のお蔭で、有意義な体験をすることができたが、お膳立てされた活動に参加するだけでなく、子どもたちも主体的に関われる機会を設けることによって、より充実した活動にしていく必要がある。

